

◇討議テーマ「つなぐ」

※園・・・幼稚園・保育所

1. 乳幼児健診や在宅から幼稚園・保育所等へのつなぎ

○園と乳幼児健診との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診等で何らかの支援の必要があると思われる幼児については、入園時に情報提供してもらえるようなシステムがあるとよいと思う。</li> <li>・健診は保護者の気づきを促す有効な機会になると思う。</li> <li>・園と乳幼児健診のつなぎをよくすることが必要だと感じている。園で気になる子どもについては、健診で保護者の気づきを促し、その後の経過観察（継続相談）に確実につなげることができるとよいと思う。</li> <li>・園での気づきを健診で保護者の気づきに結びつけることができるとよいと思う。</li> <li>・3歳児健診の前に子どもの集団生活の様子を保健師等と園が話し合う場や、支援コーディネーター等が3歳児健診に参加できるとよいと思う。</li> </ul>
○在宅から園へつなぐ役割・人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師は出産後、訪問、健診などで親子のつながりが深く、家庭の情報も把握しているため、キーパーソンになってもらえるとよいと思う。</li> <li>・保健師にはつなぎの中心的な役割を担ってもらっている。地区担当保健師が保護者の身近な相談者になってもらえるとよいと思う。</li> <li>・地区担当の保健師は短期間で代わらないようにしてほしい。</li> </ul>
○親子教室や子育て広場等のゆるやかに支える場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健診から園へのつなぎは保護者にとってハードルが高いため、中間的な場（例：親子教室や子育て広場等）があるとよいと思う。</li> <li>・健診は健やかな育ちを手助けするために予防的な関わりを全ての子どもに対して行うものであり、支援のきっかけ作りへの取組が中心になる。健診から発達クリニックまでの間に親子教室（遊びを通して観察・保護者相談・初期のペアレントトレーニング・仲間作り、先輩親の体験談等）を位置付けて実施するとよいと思う。</li> </ul>
○入園時等に家族を支える体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園時に相談できる窓口体制があるとよいと思う。</li> <li>・入園先を保護者だけで決めている状況がある。相談できるところを明確にしたり、家族と共に園の見学をしたり等、つなぎのバトンを家族と共に支援者も持って一緒に歩める体制があるとよいと思う。</li> </ul>

2. 幼稚園・保育所等の内部のつなぎや外部のつなぎ

○園への巡回スタッフ等の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・26年度から臨床心理士、幼児教育指導員等により幼稚園の巡回相談が実施された。今後、必要な人員を増やしていくことが必要だと思う。</li> </ul>
○保護者や保育者の相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者も保育者も気軽に相談できる窓口があるとよいと思う。</li> </ul>
○園内の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園の担任等の気づきを所属全体で共有するような園内体制づくりが必要だと思う。</li> <li>・園内で気軽に子どもの状況を話し合える環境づくり、担任だけで抱え込まないような協力体制づくりが必要だと思う。</li> <li>・年中児発達相談を全市に拡大できるとよいと思う。保護者や園が子どもの成長を確認する機会や必要な子どもを支援につなぐきっかけとなった。</li> <li>・市内の全ての幼稚園・保育所を巡回するシステムが必要だと思う。現在、市のモデル事業である年中児発達支援事業が市内全幼稚園・保育所で実施されるとよいと思う。</li> </ul>
○保護者との関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と保育園との信頼関係の構築が重要だと考えている。</li> <li>・伝えたいことが伝わりにくい保護者への対応と伝え方が課題となっている。</li> </ul>
○関係者等との連携を図るキーパーソン・窓口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活の場で気になる子どもには第三者から家族への気づきを促すことが必要だと思う。</li> <li>・家族の悩みや不安を受け止め、子どもの発達について共に考え歩んでくれる存在、家庭・医療・集団生活・福祉等関係者との連携を図っていけるキーパーソンの存在又は窓口が必要だと思う。</li> <li>・コーディネーターを明確にすることが必要だと思う。</li> </ul>

### 3. 幼稚園・保育所から就学（小学校・特別支援学校）へのつなぎ

○個別の支援計画、移行支援計画	・個別の支援計画、幼稚園・保育所・小学校をつなぐ移行支援計画の作成が必要だと思う。
○早期からの就学相談のシステム	・早期に相談をした子どもの把握が必要である。相談した子どもの就学相談が継続的に義務教育終了までつながっていくシステムづくりが必要だと思う。就学時からスタートでは遅い。 ・保護者が就学相談の必要性がないと判断した場合にも「子ども支援ファイル」を小学校へ送るために保護者の承諾を頂くようになっている。「支援ファイル」の作成も拒まれる家庭については口頭でつなぐ場合もある。
○就学に関する情報提供、学校見学・体験	・保護者が就学について考えるために学校見学や体験が重要だと思う。 ・就学について情報提供し、学校見学や巡回相談の利用を進めていくことが必要だと思う。
○園から学校へつなぐためのしくみ	・保育所では支援コーディネーターが中心となり、所内の支援会議を行い、保護者との関係を大事にしながら進めている。療育機関を利用している場合は各機関との支援会議をし、情報の共有化をしている。 ・支援が必要な子どもの情報を個別の教育支援計画にまとめ、個別の指導計画を作成し、指導記録とともに次に引き継ぐしくみをつくるとよいと思う。 ・園の職員と小学校の教員が日頃から連絡を取り合う体制をつくる必要があると思う。（コーディネーターが中心となり、定期的に連絡会を実施し、子どもの情報を共有できるとよい。） ・小学校の教員が園を訪問するだけでなく、園の年長クラスの担任が学校での様子を見ることができると、保育内容を考える上でもよいと思う。 ・園から小学校へタイムリーな情報交換が必要だと思う。
○家族を支え、つないでいくキーパーソン	・保護者は年中児の頃から就学先について悩んでいることが多く、家族を支え、関係者と連携を図りつないでいくキーパーソンの存在が必要だと思う。

### 4. その他全体に関すること（共通事項）

○乳幼児期からの一貫した支援システム	乳幼児期からの一貫した支援システムの構築が必要だと思う。 ・早期発見 ・早期療育、親子遊びの場 ・様々な療育の場（専門的な児童発達支援、通級指導教室、保育所・幼稚園における発達支援） ・親支援（親の交流会・学習の場） ・当事者視点での支援（ペアレントメンター）の養成 ・家族支援（ペアレントトレーニング） ・相談窓口・相談体制（気軽に相談できる場・専門的相談・医療相談）
○市民（ユーザー側）の視点に立った取り組み	・行政各課の施策について、今ある施策・事業を課内各係や他課とつなぎあいながら実施することが重要だと思う。「市」全体としての取り組みとする。（連携の重要性はまさに庁内から）
○小学校側から見た支援の働きかけ	・「つなぐ」をイメージした場合、年齢に相応した働きかけ（例：家庭→幼保→学校、保健師→幼保・学校）とは、逆のベクトルによる働きかけ（学校→幼保→家庭、学校・幼保→保健師）が重要だと思う。自分のこととして紡ぎあってほしい。
○保育所・幼稚園・保健師等の力量向上	・支援のためのつなぎには、園、保健師等の力量向上が必要だと思う。 ・管理職、保育者が研修できる場、管理職や保育者が相談できる場が必要だと思う。 ・保育士、保健師等のスキルアップ、スーパーバイザーの支援が受けられる体制が必要だと思う。
○つなぐ先・窓口の明確化 ○キーパーソン・コーディネーターの存在	・誰につなげばよいのかわかっていることが重要だと思う。 ・「ここに相談をすればいい」というところがあるとよいと思う。 ・支援が途切れないように子どもと家族を継続して支援する人が必要だと思う。 乳幼児期から支援をしている保健師がキーパーソン 相談支援事業所が付く場合は保健師と支援専門員 保育所・幼稚園に入園すると、園と保健師
○先輩親などの非専門家の活用	・地域で支える観点から、専門家のみならず非専門家を活用することも「人つなぎ」の一つとして検討してほしい。

○支援を充実に向けたマンパワーの確保	・つなぐためのマンパワーについて、適切とされる人数が今後の支援の充実に対して不足していないかの検討が必要だと思う。
○相談窓口の一本化	・体制、方法等として相談窓口の一本化を図ることが必要だと思う。 ・保健師、臨床心理士、特別支援教育コーディネーター、発達障害支援センター、相談支援専門員等の相談的役割の者が一堂に集まり対応できる相談日が設けられるとよいと思う(頻度は低頻度からでもよい)。
○保護者が気軽に利用しやすい場	・保護者が利用しやすく、敷居の低い場所が必要だと思う。(子育て支援センターの充実でもよい)
○センター的な機能の整備	・途切れのない支援のつなぎとしてセンター的な機能があるとよいと思う。
○地域毎(支所単位)の取り組み	・どこか拠点となる場所を決めるとよいが、地域(支所単位)での情報の共有やその地域ならではの取り組みも検討が必要だと思う。
○保護者への情報提供	・保護者へ様々な情報を発信していくことが必要だと思う。(発達が気になる場合に利用できる支援や療育の情報、保育所や幼稚園、通級指導教室、療育教室の情報、利用しているサービスなど保護者と関係者の情報共有など) ・出生前の段階から(両親学級等を活用して)発達障がいに関するショートレクチャーの実施や、健診等を利用して保護者の理解を進める講座等、継続的な情報発信も必要だと思う。
○情報のつなぎ、情報共有	・情報の収集、管理、活用の連携化・一体化が必要だと思う。 ・子どもや保護者を支えるための共有システムが必要だと思う。 ・どのような情報をどうつなぐのかを明確にするとよいと思う。幼稚園・保育所での情報が就学やその他のサービスにどのように生かされるのか等、目的理解や情報の整理を支援する(場・人・機関等の)総合的な窓口・流れを確認し、保健の場か、子育ての範疇か、教育分野の相談か、福祉の場で行うのか保護者のニーズに合わせて整理する。「子どもの暮らし・成長」に関わることであり、行政全体でこれらの活動が行われやすい体制を整備していくことが求められる。 ・就学に向けての情報のつなぎを考える時、その前の幼稚園・保育所への情報のつなぎについても配慮されるとよいと思う。子どもと保護者への支援計画(個別の家族の支援計画)を立てながら継続的な支援を行うことも、情報のつなぎとして必要なことではないかと思う。
○関係機関・関係者の検討の場	・支援に係る関係機関や関係者の検討の場が必要だと思う。 情報共有・支援システムの見直し